



平和首長会議ニュース

2018年7月 / 第103号

平和首長会議加盟都市数
163 各国・地域 7,614 自治体
日本国内加盟自治体数：1,728
(2018年7月1日現在)

平和首長会議の最新ニュースはこちらでチェック！

◆ウェブサイト:

<http://www.mayorsforpeace.org/jp/index.html>

◆フェイスブック:

<https://www.facebook.com/mayorsforpeace>

「いいね！」をお待ちしています。

<<今号の内容>>

- ◆第8回平和首長会議国内加盟都市会議総会の開催について
- ◆第9回平和首長会議国内加盟都市会議総会の開催希望自治体の募集について
- ◆【追加募集】平和首長会議 青少年「平和と交流」支援事業「ヒロシマ平和セミナー」参加者募集のお知らせ ※締切を7月27日(金)に延長しました
- ◆平和首長会議行動計画(2017年-2020年)に掲げる取組の実施にご協力ください
- ◆被爆樹木二世の苗木の配付事業のご案内
- ◆平和首長会議事務局がミュンヘン市(ドイツ)からインターンを受け入れました
- ◆平和首長会議会長の米国訪問についての報告をウェブサイトに掲載しました
- ◆加盟都市の活動紹介
- ◆ヒロシマ発平和関連ニュース(中国新聞社ヒロシマ平和メディアセンター提供記事)
- ◆「ヒバクシャ国際署名」への平和首長会議の賛同・協力について
- ◆平和首長会議加盟自治体数: 163 各国・地域 7,614 自治体

■第8回平和首長会議国内加盟都市会議総会の開催について

平和首長会議の国内加盟自治体の首長で構成する「平和首長会議国内加盟都市会議」では、毎年一回総会を開催しており、平和首長会議の国内における活動に関する協議・意見交換、各加盟自治体の取組についての情報交換等を行っています。

今年度は、7月17日付けのEメールにてご案内したとおり、岐阜県高山市において第8回目となる国内加盟都市会議総会を開催いたします。

貴自治体におかれましては、当会議への出席をご検討いただければ幸いです。ご参加いただける場合は、Eメールで送付した案内に添付しておりました「欠欠等連絡票」により8月31日(金)までにご回答くださいますようお願い申し上げます。一人でも多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

▶ 日程：平成30年(2018年)11月5日(月)、6日(火)

▶ 場所：ひだホテルプラザ(岐阜県高山市花岡町2-60)

※詳細については、7月17日付けの案内をご確認ください。

▼国内加盟都市会議総会のこれまでの実施状況はこちらからご確認ください。

<http://www.mayorsforpeace.org/jp/report/index.html>

■第9回平和首長会議国内加盟都市会議総会の開催希望自治体の募集について

「平和首長会議国内加盟都市会議」では、毎年一回総会を開催しており、その開催地については、被爆70周年や80周年、4年に一度の平和首長会議総会開催年などの節目の年は広島市又は長崎市とし、それ以外の年については、開催希望自治体を募って決定することとしています。

については、来年度の第9回総会の開催希望自治体を募集しますので、希望される場合は、申請書を8月31日(金)までに事務局へご提出くださいますようお願い申し上げます。なお、開催希望自治体が複数あった場合は、別途調整させていただきます。

=====
■【追加募集】平和首長会議 青少年「平和と交流」支援事業「ヒロシマ平和セミナー」参加者募集のお知らせ ※締切を7月27日(金)に延長しました
=====

平和首長会議では、「広島・長崎への受け入れを組み込んだ、青少年『平和と交流』支援事業等の充実」を重点取組項目に掲げ、今後の平和活動を担っていく青少年の育成を推進しています。

その一環として、広島市立大学が実施する「ヒロシマ平和セミナー」に、国内加盟自治体の青少年を招へいする事業を実施しており、参加者(職員)を募集します。「ヒロシマ平和セミナー」は、平和及び国際関係に関心を有する公務員、メディア関係者及び大学院生を対象とする夏季集中講義です。事業の詳細については以下のリンクをご覧ください。

▼平和首長会議青少年「平和と交流」支援事業「ヒロシマ平和セミナー」への加盟自治体からの参加者(職員)を募集します(平和首長会議ウェブサイト):

http://www.mayorsforpeace.org/jp/ecbn/effort/2018_HPS.html

▼加盟自治体からの参加者(自治体職員)の場合、参加に要する経費(往復交通費、宿泊費等)については、予算の範囲内で支援します。

▼加盟自治体の皆様におかれましては、募集要項を貴自治体職員に幅広く情報提供いただくとともに、応募者を取りまとめた上、7月27日(金)までに必要書類を電子メールにて提出してください。平和首長会議事務局で選考の上、8月上旬を目処に選考結果を通知します。

▼書類提出・問い合わせ先:

Email: kokunai-mfp@pcf.city.hiroshima.jp

◎書類提出期限:

平成30年(2018年)7月27日(金)

=====
■平和首長会議行動計画(2017年-2020年)に掲げる取組の実施にご協力ください
=====

昨年8月に長崎市で開催された第9回平和首長会議総会において、「平和首長会議行動計画(2017年-2020年)」が策定されました。この行動計画に掲げられた、世界恒久平和の実現に向けた国際世論を醸成・拡大するための取組の推進にご協力ください。

▼「平和首長会議行動計画(2017年-2020年)」(平和首長会議ウェブサイト):

http://www.mayorsforpeace.org/jp/report/meeting/data/9th_meeting/Action_Plan_2017-2020_J.pdf

次代を担う若い世代の意識啓発を目指す平和教育の実施

行動計画の重点取組の一つとして掲げられているのが、次代の平和活動を担う青少年の育成に向けて、若い世代の意識啓発を目指す平和教育を実施することです。事務局では、各加盟都市において実施されている平和教育の好事例を集約し、平和首長会議ウェブサイト等で紹介することにより、そうした活動の広がりを促進していきたいと考えています。後日、事務局から全加盟都市に対し、平和教育の好事例の収集・報告の具体的な方法等について依頼しますので、貴市、及び周辺都市の平和教育の事例の収集にご協力ください。

今月は、広島市で行われている平和教育(被爆体験継承・多文化共生)のユニークな事例をご紹介します。

▶ 「被爆体験証言者と高校生の共同制作による原爆の絵」 広島市立基町高等学校

同校では、被爆者の記憶に残る光景を創造表現コースの生徒が「原爆の絵」として制作する取組を行っています。これは、被爆者が高校生に自らの体験の中で特に強烈な印象を抱いた場面について語り、それを高校生が受けとめながら描くという被爆者と高校生との共同作業であり、絵の制作を通じて、若い世代への被爆体験継承を図るものです。

平成29年8月から、同校の生徒10人が被爆者8人とともに「原爆の絵」の制作に取り組み、平成30年7月に10作品が完成しました。その完成披露会で高校生は、「火事や死体を見たことがない



ので、その場면을想像して描くことがとても難しかったが、何度も被爆者の話を聞き、資料を調べることにより、完成させることができた」、「被爆者と協力して描いた作品を見て、多くの人が平和について考

えてほしい」など、被爆者との交流の中で抱いた思いや絵に込めた平和への願いを語りました。これらの絵は平和記念資料館に寄贈されます。

➤ 「世界なかよし教室」の取組 広島市立基町小学校

同小学校区には市内最大規模の公営住宅群があり、1980年頃から中国からの引き揚げ邦人の定着地として入居が始まり、順次その家族が呼び寄せられる中で、中国からの帰国児童が同校に編入するようになりました。1990年に、そうした児童が個別に日本語の指導を受けられるよう日本語学習教室「世界なかよし教室」が開設されました。現在では、中国以外にもフィリピン、アメリカ、ネパール、インドネシア、インドなどの国のルーツを持つ児童も在籍しており、そうした児童は全校児童の65パーセントにも上っています。



少人数での個別指導

入学時に行う語彙力のチェックや対話型アセスメントにより個々の児童の日本語能力を把握し、それに応じて所属学級以外の教室で個別指導を行う「取り出し指導」と所属学級で授業を進行する指導者とは別の指導者が個別の支援をする「入り込み指導」を組み合わせ、児童の実態に合わせて個別の指導計画を作成しています。また、日本以外のルーツを持っている仲間同士のつながりを実感し、アイデンティティを確立すること、自分の祖国の文化を大切にすることを育むことなどを目的として、月1回の全員会を実施しています。



「国際理解デー」の様子
(写真提供: 基町小学校)

さらに、日本人児童が同じ学校に通う異なる背景を持つ仲間を受け止め、支援する気持ちを持てるように、年1回全校を挙げて「国際理解デー」と題して様々な文化を体験して理解する学校行事を実施しています。このように多文化共生の学び合いを大切にしている学校です。

=====
■被爆樹木二世の苗木の配付事業のご案内

平和首長会議では、昨年の第9回総会において策定された行動計画に沿った取組として、被爆樹木二世の苗木の配付を行っています。小・中学校の平和学習での活用や公共施設の改修にあわせた記念植樹など、平和のシンボルである被爆樹木二世の育成を通じて、市民の平和意識の醸成に取り組んでいただきますよう、ご検討をお願いします。



被爆樹木二世の苗木の配付を希望される場合、所定の申請書をEメール又はFAXにて事務局までお送りください。

※この事業は、通年で進んでいるため特に申請期限はありません。また、来年度以降も継続して実施しますので、来年度以降の苗木の受け入れについても、是非ご検討いただければ幸いです。

▼Email: kokunai-mfp@pcf.city.hiroshima.jp

▼FAX: 082-242-7452

▼被爆樹木二世の苗木の配付申請書、事業紹介パンフレット印刷用データ等のダウンロード
<http://www.mayorsforpeace.org/jp/ecbn/effort.html#section04>

今年4月～7月の間に、以下の自治体において、平和首長会議から配付された被爆樹木二世の苗木または種を活用した取組が行われました。

長野県小谷村、長野県松本市、福岡県古賀市、ノルウェー・ラルヴィク市、スケズモ市、フレドリクスタッド市、ポルトガル・エヴォラ市、フランス・パリ市、スペイン・ゲルニカ・ルモ市

また、米国・ニューヨーク市では、現地のNPO法人により、被爆樹木(イチヨウ、エノキ、ナツメ)の種と、2001年に発生した9.11アメリカ同時多発テロで生き残ったサバイバーツリー(マメナシ)二世の苗木・種を交換する計画が進んでいます。今年4月24日、各界において画期的な社会貢献事業を行っている個人や団体を表彰する賞「ディスラプター・アワード」の授賞式において、来賓のベアトリス・フィン ICAN 事務局長や被爆者などが、平和首長会議が贈呈した被爆樹木の種を植えるセレモニーが行われました。現在、サバイバーツリーの苗木・種を広島市に贈る計画が進んでいます。

=====

■平和首長会議事務局がミュンヘン市(ドイツ)からインターンを受け入れました

[6月18日～7月13日]

=====

平和首長会議では、2014年度から平和首長会議インターンシップを実施しています。この事業は、平和首長会議の役員都市やリーダー都市から職員等をインターンとして広島に招へいし、平和首長会議事務局の業務に従事してもらうことにより国際的な業務の推進を図るものです。また、インターンに被爆の実相についての理解を深め、ヒロシマの思いを共有してもらうことにより、帰国後のそれぞれの都市において核兵器廃絶に向けた活動の充実、加盟都市間のネットワークの強化を促進することを目的としています。

今年6月18日から7月13日まで、平和首長会議の加盟都市であるミュンヘン市(ドイツ)から、インターンとして、ミュンヘン市職員のリカルダ・シュラーさんを受け入れました。シュラーさんは、「以前から原爆について多少の知識は持っていたものの、実際に広島を訪れ、今も続く被爆の影響など、核兵器の恐ろしさを実感しました。平和首長会議事務局での業務を通じて、被爆者の思い、広島市の平和の取組等について多くを学びました。この経験を母国に持ち帰りたいと思います」と感想を述べています。

今年度末までに、フォンゴ・トンゴ市(カメルーン)、サントス市(ブラジル)、テヘラン市(イラン)、ボルゴグラード市(ロシア)、モントリオール市(カナダ)からのインターンを受け入れる予定です。

▼ミュンヘン市からのインターンの活動について(平和首長会議フェイスブック):

<https://www.facebook.com/mayorsforpeace/posts/1923374117923312>

<https://www.facebook.com/mayorsforpeace/posts/1946844158909641>

=====

■平和首長会議会長の米国訪問についての報告をウェブサイトに掲載しました

=====

6月号でお伝えした通り、平和首長会議会長である松井一寛広島市長は、米国・ボストン市で開催された第86回全米市長会議年次総会に出席するため、先月米国を訪問しました。その活動報告を平和首長会議ウェブサイトに掲載しています。また、併せて訪問したケンブリッジ市の公立高校及びワシントンD.C.のカーネギー国際平和財団のウェブサイトにおいても松井市長の訪問について紹介されていますので、是非ご覧ください。

▼松井会長及び小溝事務総長が第86回全米市長会議年次総会への出席等のため米国を訪問(2018年6月)(平和首長会議ウェブサイト):

http://www.mayorsforpeace.org/jp/history/2020_2011/2018_6_gallery.html

▼ケンブリッジ・リンジ・アンド・ラテン・スクールウェブサイト(英語):

https://crls.cpsd.us/news/mayor_of_hiroshima_visits_crls

▼カーネギー国際平和財団ウェブサイト(英語):

<https://carnegieendowment.org/2018/06/11/avoiding-nuclear-war-discussion-with-mayor-of-hiroshima-event-6912>

=====

■加盟都市の活動紹介

=====

*川口市(埼玉県) 平和展を開催

川口市では、昭和60年に市議会で可決された「川口市平和都市宣言」の理念を基本とし、市民に戦争の悲惨さと平和の尊さを伝え、平和で豊かな社会を築いていくことを目的に毎年「川口市平和展」を実施しており、今年は、7月21日(土)から25日(水)までの5日間、JR川口駅前にある川口市立中央図書館・メディアセブンで開催します。今回のテーマである「戦中から戦後にかけての生活の変化」に関する資料を中心に、当時の時代背景に関する資料や、川口市の平和への取り組みに関する資料等の展示を行います。また、アニメーション映画「この世界の片隅に」を始め、NHKや埼玉ピースミュージアムから借用した平和に関する映像の上映や、図書館司書による平和展ブックトーク等が予定されています。

▼「川口市平和展」を開催します(川口市ウェブサイト):

<https://www.city.kawaguchi.lg.jp/soshiki/01030/010/4528/20358.html>

*二宮町(神奈川県)「ガラスのうさぎ像平和と友情のつどい」を開催

JR 二宮駅南口には、太平洋戦争終結直前の昭和 20 年 8 月 5 日、同駅周辺への機銃掃射で父を亡くした作家・高木敏子さんの自伝「ガラスのうさぎ」にちなんだ像「ガラスのうさぎ像」が建てられています。二度と戦争を繰り返してはならないという願いを後世に伝えるため、二宮町では毎年「ガラスのうさぎ像平和と友情のつどい」を開いており、今年も 8 月 5 日(日)に開催します。町内の児童・生徒による朗読や合唱、長編アニメーション「ガラスのうさぎ」の上映などが予定されています。

▼第 28 回ガラスのうさぎ像平和と友情のつどい(二宮町ウェブサイト):

<http://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/event/1530176088004.html>

*ボルゴグラード市(ロシア) 平和イベント「フレンドシップ・デー」を開催

今年 6 月 27 日、平和首長会議副会長都市であり、ロシアにおけるリーダー都市であるボルゴグラード市において、同市の姉妹都市である広島市との平和交流を紹介するイベント「フレンドシップ・デー」が開催されました。これは、6 月 28 日にボルゴグラード市でサッカー・ワールドカップロシア大会の日本対ポーランド戦が行われるのに合わせ企画されたものです。イベント会場には、両市の戦禍や復興の様子を示す写真の展示や、地元大学生が参加者に折り鶴を教えるコーナーなどが設けられました。

▼「フレンドシップ・デー」報告(英語・ボルゴグラード市ウェブサイト)

<http://www.welcomevolgogradcity.com/NewsEn.aspx?idn=427>

<<貴自治体の平和活動の情報をお知らせください>>

平和首長会議事務局では、新しい行動計画に盛り込まれている平和教育や平和文化等に関する行事実施の情報を募集しています。平和首長会議ウェブサイトの「加盟都市の活動」コーナーでご紹介しますので、記事のタイトル、英語版の有無、リンク先等の詳細を、次のアドレスにご連絡ください。

▼E メール: mayorcon@pcf.city.hiroshima.jp

海外加盟都市の平和首長会議行動計画に基づく取組に関する情報を、以下のリンクからご覧いただけます。

▼平和首長会議行動計画に基づく取組実施都市等一覧(海外)(7 月 11 日現在)(平和首長会議ウェブサイト):

http://www.mayorsforpeace.org/data/pdf/03_newmembers/2018_List_of_Activities_jp.pdf

=====
■ヒロシマ発平和関連ニュース (連載第 45 回)

[中国新聞社ヒロシマ平和メディアセンター提供記事]
=====

1985 年、オーストラリアのメルボルン郊外で生まれたその青年は、子どもの頃から毎年、折り鶴を折ってヒロシマに届ける運動に加わっていました。そして 2006 年、オーストラリアで生まれた「核兵器廃絶国際キャンペーン」(ICAN)に創設メンバーとして参加します。昨年ノーベル平和賞を受けた ICAN の中枢を担う、条約コーディネーターのティム・ライト氏です。

ライト氏は 20 代前半のころから核兵器禁止条約を求めるロビー活動を行い、国際舞台での行動力が注目されてきました。ICAN のフィン事務局長もそうですが、まさに若い力が国際世論を動かしてきたといえるでしょう。

国連の場で、核兵器禁止条約が採択されて 1 年。核保有国に加え、その同盟国は依然として背を向けたままです。そうした状況を踏まえ、核なき世界への展望を探るシンポジウムが 7 月 22 日、広島市の広島国際会議場で開かれます。広島市立大、中国新聞社、長崎大核兵器廃絶研究センターの主催で、オーストラリアからライト氏を基調講演に招き、広島市立大広島平和研究所の直野章子教授をモデレーターに、さまざまな角度から論じる予定です。北朝鮮の非核化に向けた外交交渉が始まる中で、朝鮮半島問題も当然、重要なテーマの一つとなるでしょう。被爆地広島から核廃絶への決意を、あらためて発信する機会になってほしいと思います。

関連記事は次のアドレスで読めます

○平和への扉を開く 7 月 22 日 広島で国際シンポ

<http://www.hiroshimapeacemedia.jp/?p=83434>

○核禁止条約の批准を 被爆者7団体 原爆の日に要望

<http://www.hiroshimapeacemedia.jp/?p=83702>

○廃絶の道筋 なお模索 核兵器禁止条約 採択1年

<http://www.hiroshimapeacemedia.jp/?p=83663>

○北朝鮮の非核化 被爆国がなすべきことは

<http://www.hiroshimapeacemedia.jp/?p=83244>

○社説 米朝首脳会談 非核化の道筋 早く示せ

<http://www.hiroshimapeacemedia.jp/?p=83164>

=====
■「ヒバクシャ国際署名」への平和首長会議の賛同・協力について
=====

平和首長会議では、第9回総会において策定された行動計画に基づき、「幅広い層の市民の平和意識の啓発」を目的として『ヒバクシャ国際署名』と連携した『核兵器禁止条約』の早期締結を求める署名活動を展開しています。

平和首長会議に寄せられた「『核兵器禁止条約』の早期締結を求める署名」と、「ヒバクシャ国際署名」で集められた署名を共に国連関係者に提出することとしています。

▼ヒバクシャ国際署名ウェブサイト:



=====
■平和首長会議加盟自治体数: 163カ国・地域 7,614自治体
=====

7月1日付で、19自治体が加盟し、加盟自治体数は7,614(163カ国・地域)となりました。加盟促進に関する皆様のご協力に心から感謝申し上げます。

日本国内では、厚沢部町(北海道)、礼文町(北海道)、南丹市(京都府)が加盟し、国内加盟自治体数は1,728(加盟率99.3%)となりました。

海外については、マラウイからブランタイア市が加盟しました。5月31日、アフリカ諸国の駐日大使が集うアフリカ外交団月例会議において、松井会長が加盟都市拡大について協力を呼び掛けたところ、駐日マラウイ共和国大使のご協力により同市の加盟が実現しました。イタリアからは、政府に対して核兵器禁止条約への参加を求めるキャンペーンに参加した2自治体が加盟しました。また、副会長都市でありドイツにおけるリーダー都市であるハノーバー市の呼び掛けにより、ドイツの11自治体が加盟しました。この他、フィリピン、フランスから各1自治体が加盟しました。

引き続き未加盟の近隣自治体や姉妹都市への働き掛けなど、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

▼7月1日付新規加盟自治体一覧(PDF)

http://www.mayorsforpeace.org/data/pdf/03_newmembers/2018/newmembers1807_jp.pdf

▼加盟自治体マップ

<http://www.mayorsforpeace.org/jp/membercity/map.html>

本メールニュースに関するご意見、お問合せ等は下記までご連絡ください

平和首長会議事務局

〒730-0811 広島市中区中島町1-5

(公財)広島平和文化センター 国際部 平和連帯推進課

TEL: 082-242-7821 FAX: 082-242-7452

▼Email: mayorcon@pcf.city.hiroshima.jp